

2014年 8月22日

広島市災害対策本部長 松井一實様
安佐南区災害対策本部長 吉原 武様
安佐北区災害対策本部長 藤本 誠様

日本共産党広島市議員団
中原 ひろみ
村上 あつ子
近松 さと子

広島土砂災害による被災者の救援についての申し入れ

8月20日の未明に発生した土砂災害は、39人の死者と52人もの行方不明者(22日、6時現在)という甚大な被害を引き起こしました。

広島市災害対策本部におかれましては、人命救助と被災者の救援に不眠不休で対応されていることと存じます。今は、行方不明者の早期の発見とその生存を願うものです。

さて、市議団は、災害が発生した20日の早朝より、安佐南区と安佐北区の災害現場に向き、被害の実態調査とともに、被災者の要望に応えるための聞き取り調査を行いました。

すでに、対応いただいた要望も含めて、取り急ぎ、以下の16項目について迅速で真摯な対応を申し入れます。

記

1. 緑井8丁目地区は、上下水道管が壊れて断水・停電しているが、復旧に数年もかかるなら転出も考えざるを得ない。復旧の目途を知りたい。
2. 被災家屋の被害状況の認定について、知らされているのは担当者の名前のみだ。これでは被害認定が正しく行われるのか不安である。被災者の生活再建の視点から、被害認定を積極的におこなってほしい。被害レベルの基準についても知りたい。
3. 罹災証明書の発行について、被災家屋の写真が必要だと説明されたが、被災してカメラもなく写真は提出できないとの声がある。被災地域内に居住していれば、罹災証明書を発行できるように柔軟に対応してほしい。
4. 被災して休園の扱いとなっている保育園の園児の一時預かりの手立てをとること。合わせて、被災者となり職場に出勤できない保母のいる園に対し、十分な保育体制にむけた人的な対策をとること。
5. 緑井8丁目 [] さん 裏の畑がプール状態になり自宅のブロック塀が崩壊すると新たな災害となる。早期に水抜きなどの対応をしてもらいたい。
6. 緑井8丁目地区の上組集会所は地域住民が避難場所として使用しているが、救援物資が届いていない。市が指定した以外の場所にも避難している実態を掴み、救援物資がゆき届くように柔軟に対応すること。

7. 被災地の復旧作業を支援するため、災害ゴミの撤去を迅速に行うこと。地域ごとの災害ゴミ収集日程スケジュールを被災地に早期に情報提供すること。
8. 民家の敷地内に入った流木やガレキは、家主だけでは撤去できない。ボランティアとともに自治体が責任を持って除去すること。
9. 各区の災害対策本部に総合相談窓口を設置し、被災者の問い合わせをたらい回しせず、てきぱきとした迅速な対応ができる体制を整えること。
10. 避難場所になっている学校(安佐南区は10校、安佐北区は15校)うち、教室に避難されている避難者に対し、教室から他の場所への移動について丁寧な説明をすること。
11. 可部東6丁目(新建団地)は、被害が大きく立ち入りができず、地域住民の安否が確認できていない。早期に地域住民の安否確認をしてもらいたい。
12. 大林小学校の市道そばの用水路の土砂を、地域の造園業者が自主的に重機で除去している。地域の自発的な災害復旧工事について、市がきちんと把握し、必要な費用は市が負担するようにすること。
13. 桧山地区(50世帯・100人)が孤立しているのではないかと不安の声がある。早期に実態をつかみ対応すること。
14. 三入南(桐原)は、自主防災組織が住民の避難や安否を市に報告することになっている。しかし、避難勧告も遅かったうえに、深夜に三入東小学校へ避難することはとてもできない。自治会長だけに地域住民全員の安否を確保せよと、責任を押し付けられても役割は果たせない。また、新聞記者から、「なぜ、土石流が流れる場所に集会所を建設し、避難場所に指定しているのか」と責められている。避難場所の見直しとともに、住民への避難伝達を自主防災組織まかせにせず、地域住民の安全に市が積極的な役割を果たすように、災害時の対応を見直してほしい。
15. 災害復旧費の地元負担を少なくするために、国に対し、激甚災害への指定を働きかけること。
16. 今後、どの地域が危険なのか再調査と対策をしてほしい。また、どれだけの降雨量があると危険なのか情報提供をすること。

以上